

# 花のお江戸を歩く会

## お正月散歩

### 「浅草の江戸歴史散歩&七福神めぐり」

#### ＜散歩道のご案内＞

ここは、古くから隅田川（大川）や浅草寺を中心に発達してきた典型的な江戸の下町です。それだけに、街中にはいたるところに寺社が点在し、京都と並ぶ寺町といっても過言ではありません。また、平安期から江戸時代まで、歴史を飾る事件や人物の足跡が残された地域でもあります。新年に際し、健康をお祈りしつつ、江戸の下町散歩と浅草七福神めぐりを合わせてやってしまう花のお江戸ならではの超贅沢・豪華な散歩コースです。

8代将軍徳川吉宗の頃始まったといわれる浅草名所七福神は九社寺あります。「九は数のきわみ、一は変じて七、七変じて九と為す。九は鳩でありあつまる意味をもち、また、天地の至数、易では陽を表す」という古事に由来したことによります。

#### ＜散歩道の順路＞

浅草駅→浅草公会堂→浅草寺（★大黒天）→浅草神社（★恵比寿神）→浅草猿若町（江戸歌舞伎ゆかりの地）→隅田川テラス→池波正太郎生誕地→待乳山聖天→（★毘沙門天）→今戸神社（★福祿寿）→称福寺→長昌寺→不動院（★布袋尊）→石浜神社（★寿老神）→平賀源内墓所→玉姫神社→東禅寺（江戸六地藏）→春慶寺（高尾縁）→【ランチ】→山谷堀→見返り柳→吉原大門→吉原神社（★弁財天）→鷲神社（★寿老人）→西徳寺→池波正太郎記念館→矢先稲荷神社（★福祿寿）→合羽橋商店街（解散）→地下鉄浅草駅又は田原町駅

#### ＜個別ガイド＞

##### ① 浅草寺（★大黒天）

縁起によれば、628年(推古36)宮戸川(隅田川)で漁をしていた檜前(ひのくま)浜成と竹成の兄弟が1寸8分(約5.5cm)の黄金の観音像をひきあげ、これに祈ると豊漁が続いたため、土師中知(はじのなかとも)がまつたことが起源という。857年(天安元)、円仁が堂舎を増築し、秘仏にかわる開帳本尊の御前立(おまえだち)本尊を模刻し、板木の観音像もほったことから、円仁を中興開山とする。

##### ② 浅草神社（★恵比寿神）

浅草神社では恵比須神をお祀りしています。推古天皇36(628)年3月18日、隅田川で漁をしていた檜前浜成・竹成兄弟の投網に観音ご尊像が現出なされました。郷長の土師真中知は、これを拝して篤く敬い、自宅に奉安し朝夕に礼拝、その生涯を安楽に終えました。真中知の歿後、嫡子が観音様から夢告を受け、それ以来、祖先神、郷土神を祀る「三社権現社」として篤く祀られることになったと伝えられています。明治の神仏分離令によ

り「浅草神社」と改称しました。その創建時代には不明なところもあるようですが、鎌倉初期が通説となっています。→浅草猿若町(江戸歌舞伎ゆかりの地)→宮間橋→隅田川テラス  
→池波正太郎生誕の地

### ③ 待乳山聖天(★毘沙門天)

この寺は隅田川べりの小高い丘(待乳山)にあるが、この丘は595年(推古天皇3年)9月に出現して龍が守護したと伝えられ、浅草寺の山号(金龍山)の由来となったと伝えられる。601年(推古天皇9年)この地方が早魃に見舞われたとき、歓喜天と十一面観音が安置されたと伝えられる。待乳山は、かつては周囲が見渡せる山であり、江戸時代には文人墨客がこの地を訪れている。例年1月に行われる「大根まつり」でも知られる。→池波正太郎生誕地

### ④ 今戸神社(★福祿寿)

今戸神社は康平6年(1063)、時の奥羽鎮守府源頼朝・義家父子が、奥州の夷賊阿部貞任・宗任の討伐の折、祈願し鎌倉の鶴ヶ丘と浅草今戸とに京都の石清水八幡を勧請して創建されました。招き猫発祥の地でもあります。また境、幕末に新撰組で活躍した沖田総司が、亡くなった地という”沖田総司終焉之地”の碑があります。

### ⑤ 称福寺

亀田鵬斎は、江戸時代の代表的な儒学者の一人で、詩、書、画にも人並みはずれた才能を発揮した学者、芸術家です。作品は寺社仏閣の碑や扁額、個人所有書画等、数多く存在します。お墓は称福寺にあります。→長昌寺(浅草寺の一寸八分の謎の秘仏は長昌寺に安置されていた)

### ⑥ 不動院(★布袋尊)

天台宗 砂尾山橋場寺不動院。太古の昔から浅草橋場を見続けてきた樹齢700年の大銀杏。関東三十六不動霊場二十三番札所。江戸時代には、「橋場寺」として、周辺の三条候、有馬候、池田備前候をはじめとする武家屋敷の人々の尊信を集めていたそうです。また、明治末年の大化、関東大震災、そして昭和20年3月の東京大空襲の際にも、不動院を中心とした橋場の一角だけは、災禍をまぬがれたそうです。そのことから、「霊験あらたかな火伏せの橋場不動尊」として

### ⑦ 石浜神社(★寿老神)

当社は、聖武天皇の神亀元年(724)9月11日、勅願によって鎮座され、以来1280年余の歴史を持っています。文治5年(1189)、源頼朝の奥州征討に際しての社殿の寄進、弘安4年(1281)、蒙古襲来の折、必勝を祈念しての、鎌倉將軍家お取り次ぎによる官幣(かんぺい：天皇から神に捧げる礼物)のご奉納などを経て、中世初めには大社としての発展を見ました。殊に、千葉氏、宇都宮氏などの関東武将の信仰は篤く、関八州より、多くの参詣者を集めたと、伝えられています。

東に隅田の大川、西に霊峰富士、北に名山筑波といった名勝に恵まれ、江戸近世における社運はさらに隆昌、『江戸名所図会』などにも描かれ、「神明さん」の通称のもと、市民

の間にその名を馳せました。→平賀源内ゆかりの地→五姫神社→アサヒ商店街

### ⑧ 東禅寺(江戸六地藏)

銅造地藏菩薩坐像(江戸六地藏の一つ)。享保年間(1716~36)地藏坊正元の発願で、街道筋の六か寺に建立された江戸六地藏の一つ。東禅寺は、奥州街道のそばにある。

〈江戸六地藏〉東海道=品川寺、中山道=真性寺、甲州街道=太宗寺、奥州街道=東禅寺、千葉街道=霊巖寺、永代寺(永代寺は、明治維新の廃仏毀釈で取り壊された)。境内には、銀座の木村屋総本店の初代社長木村安兵衛夫婦の胸像がある。アンパンの創始者である。

→春慶院→[ランチ]→山谷堀→見返り柳→吉原大門

### ⑨ 吉原神社(★弁財天)

江戸時代初期までこの附近は湿地帯で、多くの池が点在していたが、明暦3年(1657)の大火後、幕府の命により、湿地の一部を埋立て、日本橋の吉原遊郭が移された。以来、昭和33年までの300年間に及ぶ遊郭街新吉原の歴史が始まり、とくに江戸時代にはさまざまな風俗・文化の源泉となった。

遊郭造成の際、池の一部は残り、いつしか池畔に弁天祠が祀られ、遊郭楼主たちの信仰をあつめたが、現在は浅草七福神の一社として、毎年正月に多くの参拝者が訪れている。

池は花園池・弁天池の名で呼ばれたが、大正12年の関東大震災では多くの人々がこの池に逃れ、490人が溺死したという悲劇が起こった。弁天祠附近の築山に建つ大きな観音様は、溺死した人々の供養のため大正15年に造立されたものである。→奥宮

### ⑩ 鷲神社(★寿老人)

酉の祭、酉の市で知られる鷲神社は寿老人をお祀りしています。江戸下町を代表する神社で、開運、商売繁昌、家運隆昌、子育て、出世の神徳が深いとされ、「おとりさま」と称されて古くから江戸下町の民衆に篤く尊信されてきました。「なでおかめ」が人気→長国寺

### ⑪ 西徳寺

第17世中村勘三郎墓所。初代猿若勘三郎は、江戸川区西瑞江の大雲寺。二代目は、墨田区両国の回向院。そして、第17代は台東区竜泉の西徳寺。印象的なことは、初代中村吉右衛門さん寄進の天水桶。第17世中村勘三郎は、初代中村吉右衛門さんの弟ですね。

→池波正太郎記念館→合羽橋商店街

### ⑫ 矢先稲荷神社(★福祿寿)

矢先神社では福祿寿をお祀りしています。寛永19(1642)年11月23日、時の三代將軍徳川家光公が国家の安泰と市民の安全祈願ならびに武道の練成のために、江戸浅草のこの地に三十三間堂を建立しました。三十三間堂では弓の射技練成のために「通し矢」が行われました。通し矢は先人に勝てば堂に掲額できるとあって武士としての名誉となり、大いに流行したようです。この通し矢は江戸市民にも観覧が許され、評判を博しました。

京都の三十三間堂にならって建立されたこの堂の守護神として稲荷大明神を勧請し、その場所がちょうど的の先にあたっていたので「矢先稲荷」と名づけられました。いまからおよそ360年前のことになります→合羽橋商店街→地下鉄田原町駅又は浅草駅(解散)